

第6回秋田市河辺地域公共交通研究会議事要旨

開催の日時 平成21年5月30日(土) 午前10時～午前11時30分

開催の場所 秋田市河辺地域活動センター 3階第1会議室

委員の定数 18名

出席委員 12名

議 事 (1)河辺地域の代替交通について

事務局 開会の言葉
アドバイザー委員の紹介

会 長 挨拶
議事に入る。協議はまず、時刻表の検討から入る。BコースからAコースへの乗り継ぎを前提としているので、A・B各コース同時に協議したいと思う。事務局より説明願う。

事務局 (Aコース、Bコースについて説明。)
なお、Bコースとして9便提示しているが、この中から利用者の少ないと思われる3便を削り、実際には6本で運行したい。事務局案として日中の④・⑤便を削りたいと考えているが、この案で良ければあと1本削る便を決めて頂きたい。

会 長 地域住民でないとわからないと思うが、どうか。

委 員 Aコースの出発点は、現行の岩見三内でよいのか。

事務局 その様に考えており、利用について秋田中央交通(株)にお願いしたい。
太平線があるので、利用者の利便性も考えるとそうすべきと思う。

委 員 Aコースの上り①便に乗るためのBコースはないのか。

事務局 朝5時台からの運行は困難なため、上り②便からの接続になる。

委 員 現在の利用者数など調査したものはないのか。

事 務 局	手持ち資料がないため、持ち帰り、利用者の少ない時間帯の便を削ることによいか？
委 員	電車を利用して乗り継ぐ学生のために、⑨便は残すべきでないか。土日もこのダイヤで運行するのか。
事 務 局	土日は平日の半分程度に減便したいと考えている。どの便を減便したらよいか諮りたい。
委 員	現行はどうなっているか。
委 員	朝と夕方が減便されている。
会 長	利用者実態を踏まえ、事務局に一任してはどうか。
委 員	まず運行してもらえることが大事で、利用者が運行時間に合わせる努力も必要だと思う。
会 長	Aコース、Bコースとも利用者実績を踏まえ、事務局に一任してよいか。
委 員	Bコース⑨は、帰宅できないと困るので残し、⑥～⑧便のどれか1本を削る方向で検討してほしい。
委 員	形態は違ってても存続することに感謝している。地元住民として、この時間帯は必要だとか等言うことはない。他の委員の皆さんの意見に賛同したいと思っている。
会 長	Bコースについては、利用実態を踏まえ、事務局に一任でよいか？
事 務 局	事務局提案の④・⑤便は削り、⑨便は残す。それ以外の便から利用実態を見ながら、1便を削ることとする。では、土日の運行本数についてご意見をお願いしたい。
委 員	現行はどうなっているか。
事 務 局	上りは6時台と8時台、下りは7時台と19時台が減便されている。
会 長	利用実態を見ながら、事務局に一任し、時刻表については協議を終たいと思う。

委 員 一 同	異議なし
会 長	次に運賃について説明願う。
事 務 局	（積算の基準について説明。） 実測をしていないため、料金については若干の変更はある。また、Bコースについては経由地を含まず、岩見三内までの最短距離で設定している。前回ではゾーン制ということでもとまったが、今回提示した案は対キロ制で検討した。ゾーン制は同一ゾーン内の中間地点の料金を採用するため、公平性という観点からは疑問が生じる。具体的に言うと橋一本超えて次のゾーンに入っただけで100円違うということが起こりうる。それでも良ければゾーン制でも設定は可能だ。
委 員	よく利用する和田駅から石川までは現在150円だが、案では190円となる。若干割高にはなるが、更に10円高くなっても50円刻みにできないか。
委 員	現行料金と差がないのであれば、対キロ制でもよいのではないか。
事 務 局	ある程度集落が離れていればゾーン制にするメリットはある。ただし、バス停1本、橋1本違うだけで運賃が大きく違うということがありうる。
委 員	前回、ゾーン制に決めた理由は。
会 長	ゾーン制を希望したわけではなく、そういう方法もあるということで認識している。公平性ということから考えると対キロ制が妥当なのではないか。
委 員	現在回数券を使っているが、10円単位で準備するのが面倒なので、50円刻みの方が助かると思い提案した。 今後回数券の利用はどうなるのか？
事 務 局	使用できなくなる。高齢者ゆうゆう券については使用できる。
委 員	前回ゾーン制でもとまったが、対キロ制でいいのではないか。
委 員	和田の町内はバス停間の間隔が短い、赤平地区等に行くと長くなるので、ゾーン制は難しいのではないか。
委 員	先程の50円刻みの件だが、雄和地域は50円刻みで運賃を設定することでまとまっている。

事 務 局	我々は公平性を一番に考えるので、ゾーン制により不利益が発生するというデメリットを理解してもらえれば、ゾーン制での設定は可能なのでお諮りしたい。
委 員	Aコースは対キロ制だが、Bコースはどうか。
事 務 局	Bコースも対キロ制である。予約式のため巡回する場合もあるが、運賃は岩見三内からの最短距離で設定している。
会 長	ゾーン制という考えもあるが、不利益が発生する可能性もあることから、対キロ制でどうか。
	異議なし
会 長	アドバイザー委員からご意見を伺いたい。
アドバイザー	過疎化により、県内でも公共交通の撤退が進んでいるが、やむをえない、勇気ある決断と考えている。空白地域をどうカバーするかは自治体を中心となるが、住民の同意がなければならず、研究会を立ち上げ、これまで委員の方々が協議されてきたご努力に敬意を表する。今回まとまった案が完成形ではなく、実際運行してからも変更は可能なので、地域の足として持続していつてもらいたい。そのためには住民への利用促進を図ってほしい。
ア ド バ イ ザ ー	6回の研究会を重ね、案がまとまったことに敬意を表する。この案でやってみて、地域のニーズに合わせて改善していけばよい。予約式について現在運行している北部線で若干不便なところがあるので、予約方法等を工夫することも大事である。いかに使いやすくするか、地域・行政・事業者が継続的に検討していただきたい。
会 長	旧交通局のノウハウがあると思うので、市民の足の確保についてよりよい方策を生み出して運行してほしい。
	－議事終了－
委 員	地元の説明会はいつ頃になるのか。
事 務 局	具体的にはまだ決まってないが、市民センターと相談して決めていきたいと考えている。

委 員	業者選定が7月末なので、8・9月を予定している。
委 員	市民センターと相談しながらと言うが、河辺地域で1カ所なのか、そのあたりもこれから決めていくということか。
委 員	最低でもAコース、Bコースは分けたいと考えている。その範囲の中で、どの様にするかを相談していきたい。
委 員	岩見三内の町内会長が気にかけている。こちらでも市民センターと相談していきたい。
事 務 局	今後のスケジュールについて説明。10月1日運行開始に向け、事務を遂行していく。
委 員	運行車両については秋田市で用意するのか。
事 務 局	事業者の用意になる。
委 員	秋田中央交通(株)では、9月末廃止は決まりなのか。
委 員	秋田市地域公共交通協議会で承認後、1ヶ月前までに届出を出すことになる。
委 員	バス路線を確保でき、協議を重ねてきたので、実現に向けてよろしくお願いしたい。

—研究会終了—